

2019年12月期連結決算資料サマリー

前提：

- ・連結財務諸表を要約、編集したものです。
- ・連結対象には、当社国内子会社とエストニア子会社が含まれます。一方で、ペルー子会社及びメキシコ子会社は重要性の観点から、連結対象外としております。
- ・わかりやすさを重視し、「当社グループ（G）に帰属する分」と「お客様の預託金及びご出資頂いているファンド（匿名組合契約）に帰属する分」を区分して表記してあります。
- ・クラウドクレジット株主会社単体の決算公告は[こちら](#)になります。

1、連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円)

勘定科目	連結貸借対照表		構成比	科目説明
	当社G帰属分	ファンド帰属分		
資産の部				
現金及び預金	413	—	413	手元現金。先日発表した丸井グループとの業務資本提携等に伴う増加分は未反映であり、足元はより潤沢
預託金等	—	3,440	3,440	お客様からお預かりしている預託金
営業貸付金等	20	12,775	12,795	貸付運用残高（未収利息、引当金、為替予約分等含む）
その他流動資産	57	—	57	家賃等前払費用、未収消費税ほか
流動資産計	491	16,215	16,707	99.3%
固定資産	8	—	8	オフィス造作分、リース資産、PC、ソフトウェア等
投資等	107	—	107	連結対象外のペルー子会社株式、敷金、ヘッジ取引に係る差入保証金等
固定及び投資資産計	115	—	115	0.7%
資産合計	607	16,215	16,823	100.0%
負債の部				
顧客預り金等	—	16,215	16,215	お客様の出資金勘定（主に匿名組合へ出資中、一部預託金などの預り分を含む）
その他流動負債	243	—	243	借入金、経費未払金、預り金、リース債務等
負債計	243	16,215	16,459	97.8%
資本の部				
資本金	50	—	50	
資本準備金	1,014	—	1,014	
その他資本剰余金	1,019	—	1,019	
繰越利益剰余金	(1,694)	—	(1,694)	
株主資本	390	—	390	2.3%
為替換算調整勘定	(26)	—	(26)	
資本合計	363	—	363	2.2%
負債・資本合計	607	16,215	16,823	100.0%

2、連結損益計算書サマリー

(単位：百万円)

勘定科目	連結損益計算書		売上高比	科目説明
	当社G帰属分	ファンド帰属分		
外国利息収入	213	1,278	1,491	主としてエストニア法人から貸付先への貸付金利息収入
営業者報酬等	355	—	355	ファンド販売時にお客様から収受する手数料収入等
売上高	569	1,278	1,847	100.0%
売上原価	56	642	699	上記外国利息収入にかかる為替評価、貸倒引当金繰入他
匿名組合損益分配前売上総利益	512	635	1,147	62.1%
匿名組合損益分配額	—	635	635	ファンド（匿名組合）帰属損益分配額
匿名組合損益分配後売上総利益	512	—	512	27.7% 当社Gに帰属する売上総利益
販売費及び一般管理費	892	—	892	人件費、広告宣伝費、支払手数料、支払報酬料等
営業損益	(380)	—	(380)	-20.6%
営業外収支	(24)	—	(24)	利息収支、為替・雑損益等
経常損益	(405)	—	(405)	-21.9%
法人税等	(15)	—	(15)	均等割、調整額等
当期純損益	(389)	—	(389)	-21.1%

3、前期比較

①連結貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	連結貸借対照表		前期比較		増減コメント
	2018年12月末	2019年12月末	増減額	増減比	
資産の部					
現金及び預金	735	413	(322)	-44%	単月黒字を達成するなど損益状況が改善したため、資金調達は実施せず
預託金等	1,983	3,440	1,457	74%	
営業貸付金等	10,062	12,795	2,733	27%	貸付先匿名化解除を含む積極的な情報発信・各種キャンペーン展開等によりID登録者数約3.2万→4.3万、出資者数約1.4万→1.9万、預かり資産残高約110億円→147億円と事業規模は大きく成長 月次のファンド販売額については、2019年12月に約16.8億円を記録し過去最大値を大きく更新
その他流動資産	93	57	(36)	-39%	
流動資産計	12,872	16,707	3,835	29.8%	
固定及び投資資産計	105	115	10	9.8%	
資産合計	12,977	16,823	3,846	29.6%	
負債の部					
顧客預り金等	12,032	16,215	4,183	35%	事業規模拡大により増加
その他流動負債	158	243	85	54%	
負債計	12,190	16,459	4,269	35.0%	
資本の部					
株主資本	780	390	(389)	-49.9%	
為替換算調整勘定	7	(26)	(33)	-499.1%	
資本合計	787	363	(424)	-53.9%	
負債・資本合計	12,977	16,823	3,846	29.6%	

②連結損益計算書

(単位：百万円)

勘定科目	連結損益計算書		前期比較		増減コメント
	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減比	
外国利息収入	1,047	1,491	444	42.4%	
営業者報酬等	262	355	93	35.7%	
売上高	1,309	1,847	538	41.1%	ファンド販売額の増加に加え、引き続き手数料の適正化を図ったことにより増大
売上原価	788	699	(89)	-11.2%	
匿名組合損益分配前売上総利益	522	1,147	625	119.9%	
匿名組合損益分配額	150	635	485	324.1%	
匿名組合損益分配後売上総利益	372	512	140	37.7%	
販売費及び一般管理費	857	892	35	4.1%	コストコントロール徹底により、昨年度対比微増。事業拡大に伴う人件費、マーケティング施策費用、セキュリティ強化・外部専門家への支払報酬料含む体制整備費用が主
営業損益	(485)	(380)	105	—	
営業外収支	1	(24)	(25)	—	海外取引に係る付加価値税を計上したものの、納付免除が確定したため2020年度で戻入
経常損益	(484)	(405)	79	—	
法人税等	21	(15)	(36)	—	
当期純損益	(504)	(389)	115	—	売上高の増大及びコストコントロールの徹底により、損失は縮小

4、2020年12月期の見通しと現況

ファンド販売額は1・2月については、計画を上回るペースで推移しました。

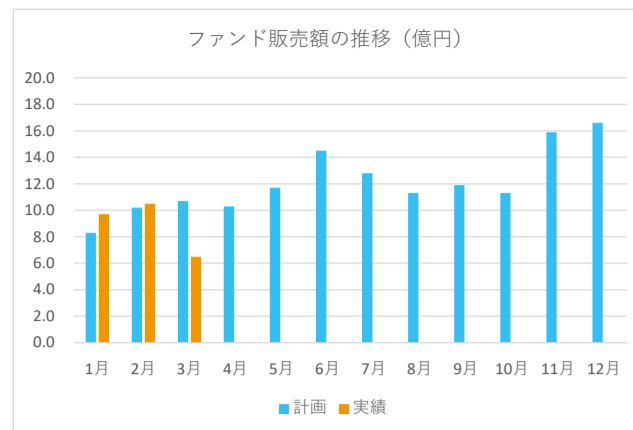
3月に入り、コロナウイルス蔓延による資本市場の混乱に伴い、お客様の投資意欲が減退し計画を下回りました。

下記の通り、2020年1Q（1～3月）の予算は達成しており、特に3月においては

- ・徹底したコストコントロールの継続
- ・付加価値税の戻入

により当社初の単月における当期純利益の黒字を達成しております。

3月以降、事業環境が不透明になっていることから、2020年12月期の見通しについては必要に応じて柔軟に見直す方針です。



（単位：百万円）

勘定科目	連結損益計算書（2020年度第1四半期）			予算 2020年度第1四半期	予実比較		増減説明
	当社G帰属分	ファンド帰属分			増減額	増減比	
外国利息収入	64	401	465	438	27	6.2%	
営業者報酬等	117	—	117	124	(7)	-5.6%	
売上高	181	401	583	562	21	3.7%	収益性の高いファンドの貢献により予算を達成
売上原価	25	954	979	151	828	548.3%	円高により売上原価に含まれる為替評価損が発生
匿名組合損益分配前売上総利益	156	(553)	(396)	410	(806)	-196.6%	
匿名組合損益分配額	—	(553)	(553)	240	(793)	-330.4%	
匿名組合損益分配後売上総利益	156	—	156	170	(14)	-8.2%	
販売費及び一般管理費	229	—	229	263	(34)	-12.9%	徹底したコストコントロールにより対予算比で費用を抑制
営業損益	(72)	—	(72)	(92)	20	—	営業損失は予算対比縮小
営業外収支	27	—	27	0	27	—	納付免除が確定した付加価値税の戻入
経常損益	(46)	—	(46)	(92)	46	—	
法人税等	0	—	0	0	0	—	
当期純損益	(46)	—	(46)	(92)	46	—	